

## ご来場お待ちしております

**創作実験劇場** 3月7日(土曜日) 18時開演 神戸ファッション美術館オルビスホール  
出演 谷川陽香 稲原真子 池田陽愛 森暖乃 住谷路 菊原麻衣花 稲益夢子 田中文菜 山本奈央 板垣祐三子 石井麻子  
向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子  
朗読 あめんぼ座 川口雅子

## 白い花咲いたよ

この作品は2008年に、兵庫県舞家協会主催の「ふれあいの祭典」で上演したものです。前年にお亡くなりになった川柳作家の時実新子さんへの追悼として、藤田佳代が企画構成を担当しました。時実新子さんの句を7句選んで、兵庫県舞家協会の先生方がそれぞれ句に振付をし、大変好評を得ました。今回の創作実験劇場では、藤田が担当した2句 —その罪をとり越えたくてバツタ跳ぶ 白い花咲いたよ白い花散った—はできるだけそのまま再演し、他の句の振り付けを研究所教師5人で担当しました。

## ただそこに在りゆうぐれの月見草

小学生の夏休み、家への帰途に通った住吉川に咲いていた月見草を思い出しました。家に帰る私と月を待って咲いている月見草の時間が交わった一瞬が、今でも鮮やかな記憶として残っています。私の中にただあり続けるあの日の月見草を踊りたいと思いました。田中文菜さん、稲益夢子さん、菊原麻衣花さんと共に創り上げます。 寺井美津子

## レジスタンス心は誰のものでもない

時実新子の句は反戦や恋愛をうたったものがたくさんあります。私はレジスタンスと聞いて、思い浮かぶものがありました。三重の芦浜原発建設反対について書かれた「原発の断り方」という本に掲載されている写真です。防波堤に立つ女性たちの姿に、ふつふつと湧き上がる怒りと仲間と共に立ち上がる強さを感じました。今回はその思いを舞踊作品にしたいと思います。 かじのり子

## 間違いは間違いとおせ桐の花

時実新子がどのような想いで詠まれた句なのか、その真意は分かりません。もしかすると、恋愛について詠まれた句なのかもしれません。私はこの句を、戦時下、「非国民」と呼ばれながらも不戦を訴え続けた人々の意思を、静かに、しかし確かに貫いた言葉として受け取りました。その意思を引き継ぎたいという願いを込めて、私はこの作品を創りました。この句を「いのちをかけた抵抗の句」と解釈すると、表現することはとても難しいものがありますが、今の私にできる精一杯を、踊りに込めたいと思います。 金沢景子

## ガム幾万吐き捨てられて沖縄よ

時実新子のこの一句には、鋭い痛みと、そこに流れる深い呼吸を感じます。私の沖縄への想いは、小学校の時に読んだ、灰谷健次郎さんの「太陽の子」から始まりました。それ以来、沖縄という言葉は、胸の奥で静かに息づいています。吐き捨てられた幾万のガム。その屈辱だけでなく、毛穴を覆われるような息苦しさ。自由に呼吸できない感覚そのものが、この一句には凝縮されているように思います。今もなお続く、沖縄の美しい海に杭を打ちコンクリートを流し込む営み。その事実を思うと呼吸が浅くなります。時実新子と共に作り上げたこの作品は、静かな抵抗であり、祈りであり、鎮魂です。忘れないという意味を、体で示したいと思います。 菊本千永

## 曼珠沙華視野いっぱい悔いである

葬送の踊りです。めぐり合わせたどんな人へも見送る側は後悔するばかりです。  
「ああ、もう会うことは叶わないのか…」という寂しさで後悔と。 向井華奈子

## ありがとうございました

**第48回発表会** 2025年10月18日(土) 神戸文化ホール中ホール  
出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆  
届ける—地震と津波と原発事故で亡くなった数限りない命たちへ あ!こんなところに みわ—雨の名を継ぐ

「みわ」の雨乞の少女たちは、ジュニア生で本部の練習に参加できる生徒が踊りました。普段顔を合わせない同じ年代と踊るのでとても楽しいようです。支部教室生にとっては、本部に行くというだけでかなりのプレッシャーになるようで、踊りたいけど、緊張するし、怖いと言いながら、私の担当からは、3人が参加してくれました。新鮮で楽しい経験で、次へのモチベーションがあがったとのこと。育っていったくれれば嬉しいです。

寺井美津子

踊りを始めたきっかけはそれぞれ違っても、出身も年齢も性別も経験年数も越えて、ひとつの舞台を共に創り上げることができる——そのこと自体が、毎回奇跡のように感じられます。48回発表会もスタッフの皆さま、そして客席で見守ってくださったお客様。家族、友人など数えきれないほどのご縁に支えられ、無事に幕を開け、誰一人欠けることなく滞りなく幕を下ろせたことに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。踊りが繋いだこのご縁が、それぞれの人生のストーリーにおいて、大切な一ページとなりますように。 金沢景子

「発表会なのにエンターテインメントとして、関係者じゃなくてもすごく楽しく見ることができる。」  
「みごたえがある。単なる発表会では終わらず一つの公演として成り立っている。」

見てくれた友人からの感想で多いのは上の二つです。私は最高の褒め言葉ではないかと、いつもありがたく思っています。

藤田佳代舞踊研究所発表会の作品は、新しく作り上げていくものなので、まだ誰も見たことがなくて、だから正解が分からない。こんなふうに踊ればいいんだという見た目でのヒントもない。全体像が見られるのは、発表会直前の照明下見の時。振り付け者もダンサーも、全体像を自分の想像の中で作り上げながらリハーサルを重ねて、それが文頭の友人たちの感想につながっていているのだから、出演者みんな（振り付け者も）ほんとにすごい！と思わざるを得ません。何が言いたいのかといえば、とてもシンプルでした。

出演してくれてありがとう。踊ってくれてありがとう。いい作品にしてくれてありがとう。

菊本千永

毎年の発表会、振付指導だけではなく、出演もしております。

若い若いダンサーに混じっての群舞。まず衣装が似合わない。ピンクに染まった白のドレスが似合わない。次に走りが遅い。そして足が上がらない。最後に踊りが覚えられない。踊った後は嬉しすぎて、若い若いダンサーの迷惑を考えずにハイタッチ。それでもやっぱり群舞が好きなんです。

あと少し、あと一回だけを繰り返しながら、また今年の発表会も若い若いダンサーと踊らせてもらえたらな、と願います。

かじのり子

2025年の発表会も出演者全員が見事に踊りきり素晴らしい舞台になりましたね！

いつもいつも発表会で思うことは、袖から観る皆さんの踊る姿が普段の姿よりも何倍も頼もしい！ということ。いつも嬉しい驚きの1日なのです。

そしてやっぱり、ひとつの舞台を経験することでまた一段と成長があって、それにまた感動します。

私もこの舞台に魅了されてここまで来たひとりですが、きっと皆さんもそうだろうな～と思います。

最後にこの舞台に関わってくださった全ての方に心より感謝して。また今年もあの舞台で踊りましょうね！

向井華奈子

## かじのり子モダンダンスステージⅥ 11月8日(土) 18時開演 神戸ファッション美術館オルビスホール

### この世にあるものたち 光の在処

(出演) 金沢景子 菊本千永 向井華奈子 石井麻子 板垣祐三子 山本奈央 田中文葉 稲益夢子 門家由采 西村美咲  
吉川杏奈 住谷蒔 安岡珠希 池田陽愛 岸本穂花 森暖乃 山本真慧 かじのり子

(美術) 加川広重

お陰様で2025/11/8にかじのり子モダンダンスステージ6を無事終えることができました。関わって下さった全ての皆様、ありがとうございます。佳代先生作品「この世にあるものたち」ではヒト役をどう踊ろうか、と悩みましたが、そこに在るだけでよいのではないかと思い当日に繋げました。かじ作品「光の在処」のために、ついについに、宮城県から加川広重さんがハイエースに乗ってお越し下さいました。「2011 3 12 夜明け前」とそれを舞台装置用に巨大化して下さった絵と共に。

まず設置が大変でした。畳より縦長のものを下7枚、上7枚を合わせて一枚の絵として立ち上がらせるのです。

上下を止めて立たせて、左右を止める。そしてその巨大画はほぼ自立しなければならない。その前に黒幕を張り、漆黒の波であるダンサーが引くと幕が振り落とされ、かじのソロへ。

ラストで背景画に向かって右手をあげながら、「これは夢かもしれないな。現実にしては凄すぎる。」と改めて見つめました。

加川さん、ありがとうございます。

「私はこんな踊りにしたくて、こんな背景画をお願いする予定で、どうやったら立ち上がりますか？その背景画を幕で覆って、途中で振り落としたいのですが、何とかして下さい、お願いします。」と相談から設置まで手掛けて下さった小野さん、ありがとうございます。

かじのり子

今回の公演の苺あつこ先生の舞台評が、[チャコットWeb Magazine](#)にて掲載されています。ぜひご一読ください。

### 小野さん！ありがとうございます。

舞台上で起きるハプニングでわあーとなった時、神の手が。いつも小野さんに助けてもらってました。ほんとうにありがとう。でも、早すぎる。

寺井美津子

全ての公演に小野さんは裏方さんとして私達ダンサーのサポートをしてくださいましたね！舞台袖の足元など細かいところまで気を配って下さったり、装置の製作なども助けてくださいました。毎回公演を支えてくださる頼れる小野さんがいないという現実が、公演当日ぽっかり穴が空いたような気がするんでしょうね？まだ実感がありませんがー。源に還っても誰かの為に尽力なさってるのでしょうか？勝手な想いですが、お空からも見守ってください。いままでありがとうございます。心から感謝いたします。

金沢景子

小野さんは必ず「困っている現場」に現れる人でした。何回も助けていただいています、一番助けられた思い出を書きたいと思います。

舞台上に一面黒い布を敷いて、その下で踊る「海の月」という作品がありました。こともあろうに本番途中で布が絡まり、身動きが取れなくなった私を、小野さんは舞台の端まで誘導し、救出し、もう踊らないというのを、「行きなさい」と文字通り背中を押してくれました。それ以来、私は小野さんを守護神だと思っています。でも、その時のお礼は言えていません。

小野さんがいない舞台裏を私は想像することができません。小野さん、本当に3月7日はいないのですか？

菊本千永

小野さんには何度も何度も助けてもらいました。

佳代先生作品「新月の祀」では一旦袖に入って、ペンライトにビー玉を乗せた小道具を持って再び舞台に戻ります。

ところが、本番中になぜか私の小道具が見当たりません。大ピンチです。このまま持ったフリをして踊るか、出演しない方が良いのか…。

ふと目をあげると、いつも側に居てくれる小野さんの手にはダンサーの足元を照らすライトが！

「それを貸して下さい！」

他のダンサーよりは大きめですが、それを持って何食わぬ顔で踊り続けました。

小野さん、困りました。これから私はピンチの際、どうしたら良いのでしょうか。今は心が追いつきません。

かじのり子

急なお別れに、今はまだ全く信じられません。

3月7日創作実験劇場、この日の都合が悪くて来れなかつただけだよ…と思ってしまいそう。

いつも正に私たちの「縁の下」の力持ちで支えてくださって。ありがとうございます。心から感謝しています。

向井華奈子